

サッカースタジアムを中心に、アリーナ・ホテル・商業施設・オフィスなどの複合施設を民間主導で開発するプロジェクトは、2018年に「長崎・幸町工場跡地活用事業 土地活用事業事業者募集」にて事業主体に決定後、土地約7.5ha（東京ドーム1.5個分）を購入、総事業費約1000億円をかけ12,000人の雇用創出を見込みのもと、今年14日に長崎スタジアムシティの開業を迎えました。

長崎市議会6月議会の委員会にて提出された資料によると、市の支出に対し経済効果は以下です。

R6年 スタジアム関連事業(長崎市) 単位:千円	
気運成熟事業	42,441
開業経済効果波及事業	125,046
施設整備補助・周辺環境整備	451,245
合計	618,732

経済波及効果試算(プロジェクトが生み出す効果)	
建設時の経済波及効果	約1,436億円
開業後の経済波及効果	約963億円
スタジアムシティの 年間想定利用者数	約850万人
※EYストラテジー・アンド・コンサルティング算出 (2022年12月時点)	
※工事の進捗とともに建設費の増加やテナントの決定などにより、試算結果に変更が生じている場合がある	

ものすごい経済効果となっています。

但し、前号「新幹線効果」でもお伝えしましたが、半面大きな影響も与えることも予想され、その分析による課題の認識と対応も必要です。

大きなリスクを伴うなかでの企業としての決断、民間だからこそできたスピード感を持ったプロジェクトの実現が将来的にも成功事例となるよう私達も支えねばなりません。推移を注意深く見守り、今後発生する課題解決に努めます。

(株)ジャパネットホールディングスの雇用

スタジアムシティ開業までに 約1,000人
(正規社員 約200人・非正規社員 約800人)

【追伸】

直後の記事。お祝い気分には水を差す内容。私は市議時代に「長崎駅からの直結」を議会質疑で提案しました。

当時の答弁は「技術的にはできるそうだが、コストと安全性(法律により架線の下に民家があるとはいけない)をクリアできない」とのこと。

今回の提案は淵神社からの延伸…できそうな気がするのですが、
できるための再検討をしてほしいものです。



稲佐山からスタジアムシティ
ロープウェイ延伸「難しい」
高田社長 指定管理撤退の可能性示唆

長崎市の稲佐山山頂と麓の淵神社駅(編町)を結んでいるロープウェイの駅を長崎スタジアムシティ(幸町)まで延伸する計画について、ジャパネットホールディングス(HD、佐世保市)の高田旭人社長は14日の会見で、市からの説明を受けた感想として「難しいのかな」と述べた。

ジャパネットグループの「撤退の可能性を議論している」と撤退の可能性を示唆した。

リーショナルクリエーション長崎(長崎市)は2020年度から稲佐山公園と「長崎ロープウェイ」の指定管理者を務めるが、高田社長は「延伸を想定して請け負った。今後続けるか検討に高き70程度の鉄塔の」と期待が寄せられている。(山口栄治)

建設や周辺住民の理解が必要ななどの課題もあるという。同市観光政策課は「総額でどれくらい必要か、採算性はどうかなどの課題を整理している」としている。

延伸は地元経済界からも「夜景観光など周辺地域全体が魅力的な場所になる」と期待が寄せられている。(山口栄治)

(後略)

